一．傍線部「る」の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の終止形　イ．完了・存続の助動詞「り」の連体形　ウ．動詞の連体形活用語尾の一部〉

1　病を受くることも、多くは心より受く。　（徒然草）　［　　］

2　舎人（とねり）が、寝たる足を狐（きつね）に食はる。　（徒然草）　［　　］

二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．完了（強意）の助動詞「ぬ」の終止形　イ．打消の助動詞「ず」の連体形　ウ．ナ変動詞の終止形活用語尾〉

1　夜になして京には入らんと思へば、急ぎしもせぬほどに、月出でぬ。　（土佐日記）　a［　　］　b［　　］

2　日かずのはやく過ぐるほどぞ、ものにも似ぬ。　（徒然草）　［　　］

三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．打消の助動詞「ず」の已然形　イ．完了の助動詞「ぬ」の命令形　ウ．願望の終助詞（奈良時代）　エ．動詞の活用語尾〉

1　わが背子は仮庵作らす草なくは小松が下の草を刈らさね　（万葉集）　［　　］

2　心は枯れじ。草木ならねば。　（大和物語）　［　　］

四．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．現在推量の助動詞「らむ」　イ．完了の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」　ウ．動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」　エ．打消の助動詞「ず」の未然形の一部＋推量の助動詞「む」　オ．形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」〉

1　ねたくくちをしと思はざらんや。　（徒然草）　［　　］

2　有房ついでに物習ひ侍らん。　（徒然草）　［　　］

五．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．四段動詞「なる」の連用形　イ．断定の助動詞「なり」　ウ．伝聞・推定の助動詞「なり」　エ．形容動詞の活用語尾〉

1　「明けはてぬなり。帰りなむ。」　（枕草子）　［　　］

2　夕日の影も静かなり。　（源平盛衰記）　［　　］

六．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．助詞　イ．副詞の一部　ウ．完了の助動詞「ぬ」の連用形　エ．断定の助動詞「なり」の連用形　オ．形容動詞の連用形活用語尾〉

1　十月つごもりなるに、もみぢ散らで盛りなり。　（更級日記）　［　　］

2　親たちは、はや、失せたまひにき。　（源氏物語）　〔　　〕

七．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．断定の助動詞　イ．完了・存続の助動詞　ウ．形容動詞の活用語尾〉

1　怪しがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。　（竹取物語）　〔　　〕

2　飼ひける犬の、暗けれど主（ぬし）を知りて飛びつきたりけるとぞ。　（徒然草）　〔　　〕

八．次の傍線部の用法として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．強意の係助詞「なむ」　イ．願望の終助詞「なむ」　ウ．強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量（意志）の助動詞「む」　エ．ナ変動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」〉

1　忍びては参り給ひなむや。　（源氏物語）　〔　　〕

2　橋を八つわたせるによりてなむ、八（やつ）橋（はし）といひける。　（伊勢物語）　〔　　〕

九．次の傍線部の用法として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．希望の終助詞「ばや」　イ．接続助詞「ば」（仮定条件）＋係助詞「や」　ウ．接続助詞「ば」（確定条件）＋係助詞「や」〉

1　尼にとなりなばやの御心つきぬ。　（源氏物語）　〔　　〕

2　思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせばさめざらましを　（古今集）　〔　　〕

十．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選べ。
〈ア．格助詞　イ．接続助詞〉

1　足にまかせて来り候ふが、雨は降る暗さは暗し、行くべき方もなし。　（御伽草子）　〔　　〕

2　清少納言が書けるも、げにさることぞかし。　（徒然草）　〔　　〕

十一．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～カから選べ。
〈ア．過去の助動詞「けり」の已然形　イ．形容詞の已然形活用語尾　ウ．推量の助動詞「べし」の已然形の一部　エ．打消推量の助動詞「まじ」の已然形の一部　オ．希望の助動詞「まほし」の已然形の一部　カ．四段動詞の已然形活用語尾＋完了の助動詞「り」の已然形（命令形）〉

1　秋にはをさをさ劣るまじけれ。　（徒然草）　〔　　〕

2　人はなほ暁のありさまこそをかしうもあるべけれ。　（枕草子）　〔　　〕

十二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．サ変動詞「す」の連用形　イ．過去の助動詞「き」の連体形　ウ．強意の副助詞「し」　エ．強意の終助詞「かし」の一部〉

1　ゆかしくし給ふなるものを奉らむ。　（更級日記）　（　　）

2　しまがくれゆく舟をしぞ思ふ　（古今集）　（　　）

十三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。

〈ア．副詞「しか」　イ．過去の助動詞「き」の已然形　ウ．過去の助動詞「き」の連体形＋疑問の係助詞「か」　エ．強意の副助詞「し」＋疑問の係助詞「か」　オ．希望の終助詞「てしか」の一部〉

1　あさましやと見しかとだにも思はぬに　（拾遺集）　（　　）

2　召し寄せ、「ここは常陸の宮ぞかしな。」「しか侍り。」と聞こゆ。　（源氏物語）　（　　）

十四．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．格助詞「して」　イ．接続助詞「して」　ウ．サ変動詞の連用形（活用語尾）＋接続助詞「て」〉

1　かしら一所にゆるぎあひて、さしぐしも落ち、用意せねば折れなどして笑ふもまたをかし。　（枕草子）　（　　）

2　文あきらかにして、聖の教へを知れるを、第一とす。　（徒然草）　（　　）

十五．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．サ変動詞「す」の未然形　イ．過去の助動詞「き」の未然形　ウ．使役（尊敬）の助動詞「す」の連用形〉

1　はつる暁まで門（かど）たたく音もせず、　（枕草子）　（　　）

2　心ざしはせむとす。　（土佐日記）　（　　）

十六．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選べ。

〈ア．完了（強意）の助動詞「つ」　イ．接続助詞「て」〉

1　春過ぎて夏来たるらし白妙の衣ほしたり天の香具山　（万葉集）　（　　）

2　障（さは）ることありてなほ同じ所なり。　（土佐日記）　（　　）

十七．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。

〈ア．格助詞「と」　イ．接続助詞「と」　ウ．断定の助動詞「たり」の連用形　エ．形容動詞の連用形活用語尾　オ．副詞の一部〉

1　つくづくと一年（ひととせ）を暮らすほどだにも、　（徒然草）　（　　）

2　はらはらとぞ泣かれける。　（平家物語）　（　　）

十八．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～キから選べ。

〈ア．禁止の副詞「な」　イ．禁止の終助詞「な」　ウ．詠嘆の終助詞「な」　エ．奈良時代の意志の終助詞

「な」　オ．完了（強意）の助動詞「ぬ」の未然形　カ．打消の助動詞「ず」の未然形　キ．希望の終助詞「てしがな」の一部〉

1　契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山浪越さじとは　（後拾遺集）　［　　］

2　かすが野は今日はな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり　（古今集）　［　　］

十九．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～キから選べ。

〈ア．格助詞「に」　イ．接続助詞「に」　ウ．完了の助動詞「ぬ」の連用形　エ．断定の助動詞「なり」の連用形　オ．形容動詞の連用形活用語尾　カ．ナ変動詞の連用形活用語尾　キ．副詞の一部〉

1　七（しつ）珍（ちん）万（まん）宝（ぼう）さながら灰（くわい）燼（じん）となりにき。　（方丈記）　［　　］

2　その里に、いとなまめいたる女はらから、住みけり。　（伊勢物語）　［　　］

二十．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．格助詞「にて」　イ．断定の助動詞「なり」の連用形＋接続助詞「て」　ウ．形容動詞の連用形活用語尾＋接続助詞「て」〉

1　光みちて清らにてゐたる人あり。　（竹取物語）　［　　］

2　深き河を舟にて渡る。　（更級日記）　［　　］

二十一．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．接続助詞「ば」（仮定条件）　イ．接続助詞「ば」（確定条件）　ウ．係助詞「ば」〉

1　石山にこもりたれば、夜もすがら雨ぞいみじく降る。　（更級日記）　［　　］

2　かくさしこめてありともかの国の人来ば、みな開きなむとす。　（竹取物語）　［　　］

二十二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。

〈ア．推量の助動詞「らむ」　イ．動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」　ウ．形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」　エ．完了（存続）の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」　オ．打消の助動詞「ず」の未然形の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」〉

1　（鷺（さぎ）ハ）「ゆるぎの森にひとりは寝じ。」と争ふらむ、をかし。　（枕草子）　［　　］

2　まことの神の助けにもあらむを、　（源氏物語）　［　　］

二十三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．格助詞「を」　イ．接続助詞「を」　ウ．間投助詞「を」〉

1　ある人、弓射ることを習ふに、　（徒然草）　［　　］

2　とまれかくまれ、まづ疾（と）くをきこえむ。　（蜻蛉日記）　［　　］

一.
2 ア
1 ウ

二.
2 イ
1 a
イ
b
ア

三.
2 ア
1 ウ

四.
2 ウ
1 エ

五.
2 エ
1 ウ

六.
2 ウ
1 ア

七.
2 イ
1 イ

八.
2 ア
1 ウ

九.
2 ウ
1 ア

十.
2 ア
1 イ

十一.
2 ウ
1 エ

十二.
2 ウ
1 ア

十三.
2 ア
1 ウ

十四.
2 イ
1 ウ

十五.
2 ア
1 ア

十六.
2 イ
1 イ

十七.
2 オ
1 オ

十八.
2 ア
1 ウ

十九.
2 ア
1 ウ

二十.
2 ア
1 ウ

二十一.
2 ア
1 イ

二十二.
2 イ
1 ア

二十三.
2 ウ
1 ア